

（別紙 1）施設紹介

①	<b>特別養護老人ホームうみべの家</b>	所在地	東茨城郡大洗町大貫町 2 5 5 - 5		
居室のタイプ	ユニット型	平均要介護度	3. 9		
入所者数	5 0 名	職員数	5 5 名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	天井走行型リフト7台、床走行型リフト2台			
	スライディングボード	5 枚	スライディングシート	6 枚	
	その他の福祉用具	スタンディングリフト4台			
特記事項	リフトやボードはお母さん世代の職員に特に好評です！				
PR	<p>年2回腰痛アンケートを実施しており、腰痛の有訴者の低減が数字に表われており、また腰痛に起因する退職者は見られません。リフト等のサポートツールを使用することにより、異業種からの入職者やシニア世代の入職者の定着化の一助になっています。また、入居者の心身の状態にあわせた移乗介助の選択肢の幅が広がっています。</p>				
②	<b>特別養護老人ホームこほく</b>	所在地	土浦市菅谷町タカノス 1 1 6 8 - 1		
居室のタイプ	ユニット型	平均要介護度	3. 8		
入所者数	8 0 名(ショート10名)	職員数	8 1 名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト2台			
	スライディングボード	9 枚	スライディングシート	8 枚	
	その他の福祉用具	スライディンググローブ、フレックスボード、介護ロボット(マッスルスーツ)			
特記事項	スライディングボード動画マニュアル作成・床走行リフトの取扱いマニュアル作成				
PR	<p>令和6年度、こほくの合言葉の『ポジティブな雰囲気づくりと生産性の向上』をテーマに、職場での対ご利用者対ご家族、対職員において、職員各自がポジティブなストローク(笑顔・明るい・心遣い・思いやり)を他者に与えられるようにしていきたいと考えています。腰痛予防への取組みを通し「労働安全衛生」にも着目してより安全な職場環境を目指し、職員の安全と健康を守ることの出来る職場環境作りに取り組んでいます。</p>				
③	<b>青嵐荘特別養護老人ホーム</b>	所在地	結城市七五三場 2 1 0 - 1		
居室のタイプ	既存型	平均要介護度	3. 5		
入所者数	1 0 0 名	職員数	5 8 名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト2台			
	スライディングボード	7 枚	スライディングシート	1 0 枚	
	その他の福祉用具	フレックスボード・見守り支援機器 a a m s			
特記事項	いつでもどこでも確認できる動画マニュアルで、技術向上に励んでいます！				
PR	<p>当施設は、腰痛予防モデル施設として、施設で働く全職員が腰痛の心配なく笑顔で働ける事を目標として取り組んでおります。そのために職員がいつでもどこでもスマホやタブレット等で確認できる動画化したマニュアルを作成しています。また「リフト」等の使用・選定を行うと共に、各種ロボットや支援機器の試用を継続する事で、より負担の少ない介護方法が統一して行える 職場環境づくりに努めております。少しでも関心がおありでしたら、遠慮なく当施設にご連絡ください。また、『腰痛予防モデル施設研修』への参加もお待ちしております。</p>				

(別紙2) 施設紹介

④	<b>特別養護老人ホームサン豊浦</b>	所在地	日立市川尻町758-27		
居室のタイプ	従来型	平均要介護度	4.1		
入所者数	62名	職員数	48名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト3台、スタンディングリフト4台			
	スライディングボード	5枚	スライディングシート	4枚	
	その他の福祉用具	フレックスボード、イージーロール			
特記事項	介護職員が福祉用具を活用できるよう促進しています！				
PR	<p>当施設では自立支援介護と看取りケアを主に取り組んでいます。利用者様の自立や尊厳を守るため、日常生活の中に生活リハビリを取り入れたり、トイレでの排泄を行っています。</p> <p>最期の時まで、本人らしい生活が少しでも続けられるようにサポートしています。また、職員の腰痛予防の取り組みとして、福祉用具を使用したり、利用者様個別に合った介助方法を学びながら、働きやすい職場づくりを目指しています。</p>				
⑤	<b>特別養護老人ホーム松寿園</b>	所在地	鹿嶋市武井1956-3		
居室のタイプ	ユニット型(72)、従来型(28)	平均要介護度	4.2		
入所者数	100名	職員数	79名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト3台			
	スライディングボード	7枚	スライディングシート	13枚	
	その他の福祉用具	介護ロボットaams10台、自動体位変換機能付きエアマットレス(利楽)5基、跳ね上げ式車いす、低床ベッド、超低床ベッド			
特記事項	職員の身体への負担軽減を図り、リフトをはじめ色々な福祉機器類を導入しています。腰痛予防のために、1日2回定期的に体操を行っています！				
PR	<p>介護業界は深刻な人材不足の状況にあり、当園に就業されている職員の高齢化もさらに進んでおります。そのような中、当園では「ひとりひとりが安心して安全に長く働き続ける事が実現できる様に」という目標を掲げ腰痛予防対策に取り組み、この数年の間に床走行リフトの活用や跳ね上げ式車椅子やスライディングボード等の福祉機器類の購入に加え、見守りセンサーや自動体位変換式エアマットも導入してまいりました。ようやく、職員に『身体の負担を減らす』という認識ができてきたのではないかと感じる今日この頃となりました。きっと、私達と同じような悩みをお持ちの施設も多いのではないのでしょうか。ぜひ『腰痛予防モデル施設研修』に参加していただいて、情報を共有しながら、お互いのより良い施設を目指しませんか。</p>				
⑥	<b>特別養護老人ホーム桜の郷元気</b>	所在地	東茨城郡茨城町桜の郷231-7		
居室のタイプ	ユニット型	平均要介護度	3.48		
入所者数	80名(内ショート10名)	職員数	72名		
設備状況 (腰痛予防関連)	リフト(種類)	床走行式リフト			
	スライディングボード	5枚	スライディングシート	8枚	
	その他の福祉用具	フレックスボード			
特記事項	テストを行い全職員が安全にリフト操作を行えるようにしています！				
PR	<p>泰仁会の経営理念の中にある「職員の生活を保障し健全な職場づくりをします」の言葉を実践するために、腰痛による離職者0(ゼロ)を目指し桜の郷元気では腰痛予防の取り組みを行っています。コロナ禍でもあり研修等がなかなか行えていませんが、新たに腰痛予防担当者を増やし、少しずつではありますが前進していると感じています。また、運営方針である『地域と共に暮らし地域に繋げるサービスの実践』のもと、誰もが住み慣れた家や地域で暮らし続けたいという願いを実現するため福祉用具を使用しながら自立支援を行い在宅復帰にも力を入れています。</p>				

